

株式会社仁張工作所 環境経営レポート 2025

期間：2024年12月21日～2025年12月20日



2026年3月31日発行

環境経営レポート目次

1. ご挨拶
 2. 会社概要
 - 2-1. 会社概要
 - 2-2. エコアクション対象範囲
 - 2-3. 経営理念・行動規範・品質方針
 3. 環境経営方針
 4. EA21推進組織及び役割・責任・権限
 5. 環境負荷の実績と目標
 - 5-1. 主な環境負荷の実績
 - 5-2-1 環境経営目標（原単位数値）とその実績
 - 5-2-2 環境経営目標（総量数値）とその実績
 6. 環境計画の取組結果とその評価、次年度の計画
 7. マテリアルバランス
 8. 環境関連法規等の遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反・訴訟の有無
 - 8-1. 法令遵守状況
 - 8-2. 違反・訴訟の有無
 - 8-3. 近隣からの苦情の有無
 9. 2025年度の取組み
 - 9-1. 非常事態処理訓練
 10. その他の取組み
 - 10-1. 地域の清掃活動
 11. マネジメントレビュー
 - 11-1. 経営者による全体評価
 - 11-2. 次年度に向けて（アクション）
- あしがき

1. ご挨拶

当社は2000年に品質マネジメントシステムISO9002を認証取得し、環境マネジメントシステムについては、2003年度に環境省が実施したエコアクション21試行版によるパイロット企業として参画して以来、認証取得して23年目を迎えました。

現在は「品質活動と環境活動が重なり合った経営マネジメントシステム」として経営の有効なツールと認識し、生産活動を進めております。

国連が提唱する持続可能な開発目標(SDGs)と自らの環境経営との関連性を見だし、自社の事業活動と持続可能な社会づくりとのベクトル合わせができるように取り組みました。

ここに2025年度の環境経営活動の結果をまとめ、報告いたします。

代表取締役社長 仁張 茂

2. 会社概要

2-1 会社概要

1964年10月1日、東海道新幹線が開通した記念すべき日に産声を上げた仁張工作所は 2024年10月1日に創業60年目を迎えました。創業以来、弊社は主としてスチールやステンレスの薄鋼板を加工して各種保管庫、キャビネット、デスクなどを設計・製作するほか、幅広い用途を持つ箱物板金製品・各種精密板金製品を提供してきました。

現在では多業種・多業界における一次サプライヤーとしての板金加工部品供給を筆頭にOEM製品やオーダーメイド、オリジナル製品など多様な製品を提供し続けています。ご興味のある方は下記HPもご覧ください。 URL <https://nimbari.co.jp/>



2-2 エコアクション対象範囲

事業所名 株式会社仁張工作所

URL <https://nimbari.co.jp/>

エコアクション21の対象範囲と所在地(2025年12月現在)

◎ 本社工場 〒578-0921 大阪府東大阪市水走3丁目14番6号

◎ 仕上棟・仕上第二棟 〒578-0921 大阪府東大阪市水走3丁目8番26号

社員数 82名 売上高 1,992百万円

※2025年3月に仕上棟の統合と新設拡大しております。これについては2026年度に拡大審査で対応します。

環境経営活動担当者の連絡先

環境管理責任者 仁張 茂 事務局 総務経理部

連絡先 Tel : 072 - 962 - 2831 Fax : 072 - 963 - 4183

E-mail sakamoto@nimbari.co.jp

事業活動（認証・登録範囲）

精密板金加工製品、別注スチール製家具・什器、箱物板金加工製品の製造

（「環境経営レポート2025」についての問合せは事務局までご連絡ください）

2-3 経営理念・行動規範・品質方針

経営理念

1. 私たちは板金加工を通じて、ものづくり、仕事づくり、ひとづくりに努力します
2. 私たちはお客様の満足を通じて仕事に誇りを持ちよりよい生活を実現し働きがいのある会社づくりに努力します
3. 私たちは常に新しい板金加工技術について積極的に学び自分たちのものとし共有化することによって技術レベルの高い信頼される会社を目指します

行動規範

1. 規律正しく行動し、仕事に対して誠実になろう
2. 決められた事を守り、妥協しないプロ集団になろう
3. 社員は仲間 相手の考えを受け止め、自分の考えを入れこみ“私たち”の考えをつくろう

品質方針

「品質に責任を持ち、顧客の信頼に応える」

3. 環境経営方針 制定日：2003年10月1日

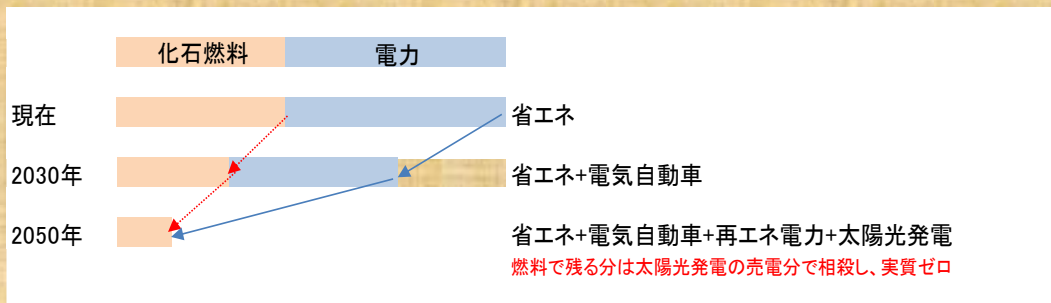


私たち株式会社仁張工作所は 経営理念に基づき 板金加工製品のモノづくり事業を遂行するにあたり 環境影響をとらえ 社員の育成と成長を通じて 自然資源を維持する ‘地球にやさしい’ 取組みを展開します

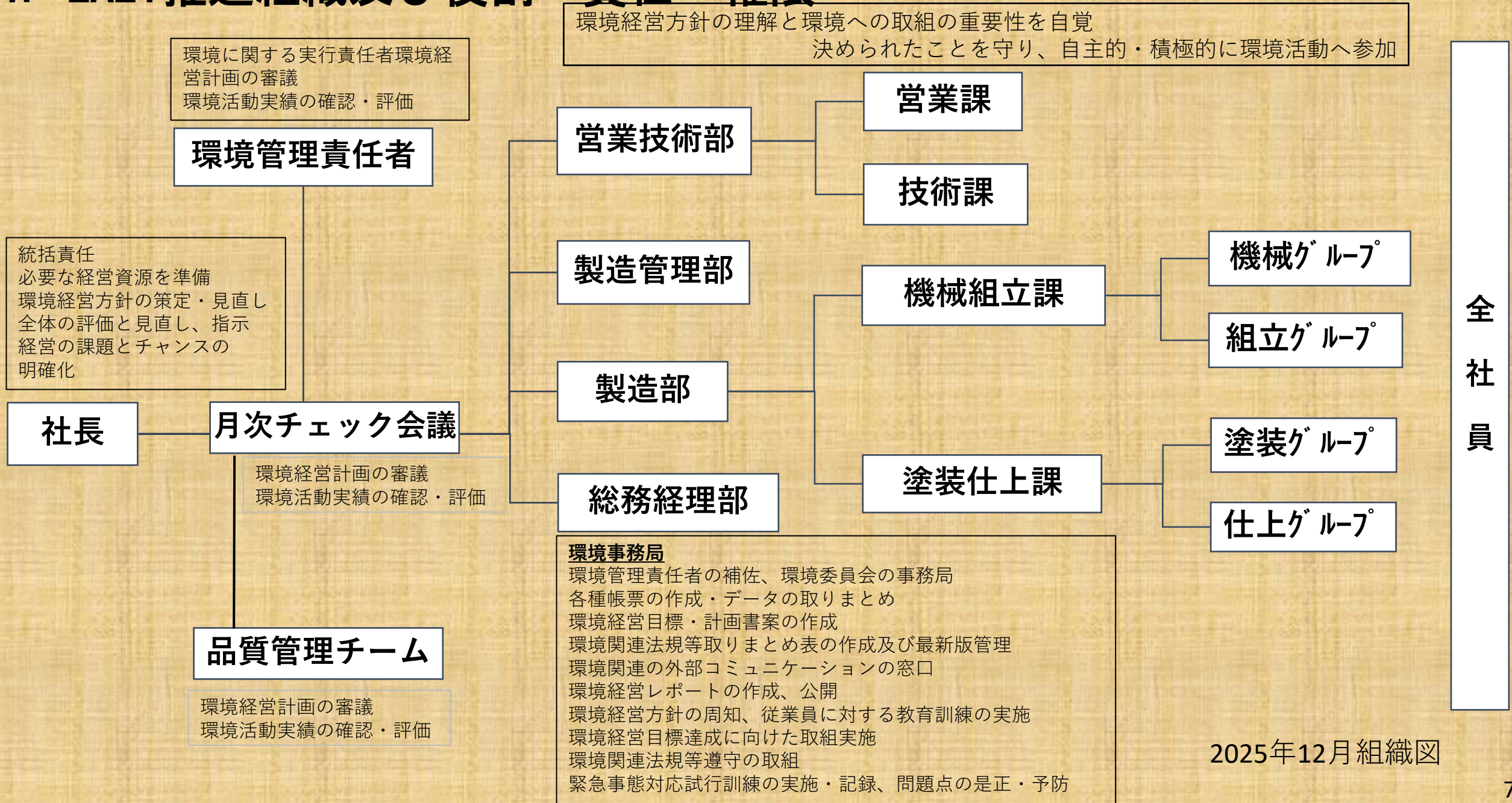
1. 現在及び将来の事業活動において 環境経営目標を定め 技術的 経済的に可能な範囲で継続的改善に努めます
2. 品質を良くすることは環境につながることを理解し、生産性向上によるエネルギーの有効活用と共に 二酸化炭素排出量の削減、廃棄物排出量の削減、水使用量の削減、化学物質の削減と適正管理に努めます。
3. 働き方を改善することで、生産性向上に努め、当社の企業価値を発信します。
4. 適用される環境関連法規及び当社が個別に同意した要求事項を遵守します。
5. 環境経営方針を教育・啓発活動を通じて全社員に周知すると共に、地域社会や行政、取引先・外部委託業者などにも情報を開示し良好なパートナーシップを維持することで理解と協力を求め、環境に関する意識の向上を図ります。

2022年12月21日改訂 代表取締役 仁張茂

カーボンニュートラルに向けた取組



4. EA21推進組織及び役割・責任・権限



2025年12月組織図

5. 環境負荷の実績と目標



5-1 主な環境負荷の実績

項目	単位	2023年度	原単位 /百万円	2024年度	原単位 /百万円	2025年度	原単位 /百万円
二酸化炭素排出量	kg-CO2	532,720	323.25	594,610	325.99	545,662	273.90
一般産業廃棄物	kg	3,338	2.03	2,892	1.59	6,478	3.25
廃油 & 汚泥 (特管)	kg	27,160	16.48	25,615	14.04	32,570	16.35
一般事業系廃棄物	kg	8,884	5.39	7,864	4.31	7,170	3.60
水道水使用量	m ³	2,695	1.64	3,737	2.05	4,509	2.26

※電力のCO₂換算係数 0.379kg-CO₂/kWh (中部電力ミライズR2)
 ※原単位は生産高100万円当たり
 ※一般産業廃棄物は廃プラ、木くずを産廃としてマニフェスト処理しています。



5-2-1 環境経営目標（原単位数値）とその実績
※毎年目標は、前年度実績の 2~5 %とします。

原単位は生産高100万円あたり

方針番号	番号	方針項目	目標項目	単位	2024年度実績 (基準値)	2025年度 目標	備考	2025年度 実績	達成状 況	2026年度 原単位目標
2	E-1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh/百万円	553.93	537.32	-3%	422.93	○	414.47
			LPG使用量	m ³ /百万円	13.36	13.09	-2%	13.21	×	12.95
			都市ガス使用量	m ³ /百万円	7.96	7.80	-2%	8.66	×	8.49
			灯油使用量	L/百万円	0.94	0.92	-2%	0.98	×	0.96
			ガソリン使用量	L/百万円	1.54	1.51	-2%	1.38	○	1.35
			軽油使用量	L/百万円	3.46	3.39	-2%	2.37	○	2.32
			二酸化炭素排出量	kg-CO ₂ /百万円	325.99	317.37	-2%	273.90	○	268.42
	E-2	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物	kg/百万円	1.59	1.55	-2%	3.25	×	3.19
			廃油&汚泥	kg/百万円	14.04	13.76	-2%	16.35	×	16.02
	E-3	排水量の削減	水道水使用量	m ³ /百万円	2.05	2.01	-2%	2.26	×	2.22
	E-4	化学物質の削減と適正管理	シンナー購入量	kg/百万円	8.33	8.17	-2%	7.05	○	6.91
			粉体塗料使用量	使用比率%	32.2	32.8	2%	32.7	×	33.4
3	E-5	企業価値の発進	一人当たり付加価値額	%	100%	100%以上		137%	○	2025年度実績以上

5-2-2 環境経営目標（総量数値）とその実績



			総量実績(原単位実績)						
方針項目	目標項目	単位	2023年度	原単位 /百万円	2024年度	原単位 /百万円	2025年度	原単位 /百万円	2026年度 総量目標
二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	kWh	872,668	529.53	1,010,389	553.93	842,547	422.93	825,696
	LPG使用量	m³	22,801	13.84	24,369	13.36	26,315	13.21	25,789
	都市ガス使用量	m³	12,268	7.44	14,513	7.96	17,262	8.66	16,917
	灯油使用量	L	1,822	1.11	1,716	0.94	1,945	0.98	1,906
	ガソリン使用量	L	3,982	2.42	2,816	1.54	2,754	1.38	2,699
	軽油使用量	L	7,177	4.35	6,318	3.46	4,712	2.37	4,618
	二酸化炭素排出量	kg-CO2	532,720	323.18	594,610	325.99	545,662	273.90	534,748
廃棄物排出量の削減	産業廃棄物	kg	3,338	2.03	2,892	1.59	6,478	3.25	6,348
	廃油&汚泥	kg	27,160	16.48	25,615	14.04	32,570	16.35	31,919
排水量の削減	水道水使用量	m³	2,695	1.63	3,737	2.05	4,509	2.26	4,419
化学物質の削減と適正管理	シンナー購入量	kg	12,901	7.83	15,202	8.33	14,048	7.05	13,767
	粉体塗料使用比率	%	—	—	32.2	—	32.7	—	33.4
企業価値の発進	一人当たり付加価値額	%	—	—	100	—	137	—	2025年度実績以上

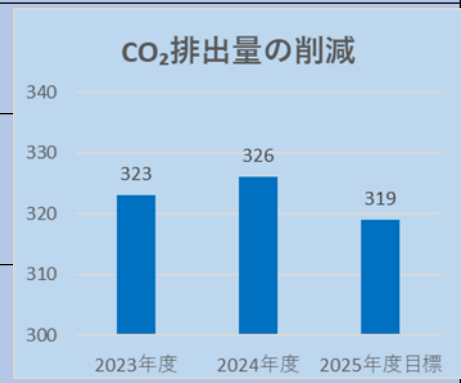
売上高百万円		
1,648	1,824	1,992

6. 環境計画の取組結果とその評価、次年度の計画



活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

番号	方針項目	目標項目	主な取り組み(目標達成手段)	達成状況	実行部署
E-1	二酸化炭素排出量の削減	電力使用量	機械装置のリニューアルによる使用量の削減	○	総務
			働き方見直しによる残業時間の短縮	○	全部署
		LPG使用量	塗装の作業改善、品質改善で社内生産でのLPG削減	△	塗装G
		都市ガス使用量	クールビズ・ウォームビズを実施し冷暖房用燃料の削減	×	全部署
		灯油使用量		×	機械組立
		ガソリン使用量	物流の効率化で車燃料削減	○	全部署
		軽油使用量		○	全部署
	取り組みの評価	電力使用量	数値目標＝使用量、排出量ともに達成。 7月の機械装置入れ替え後の使用量の削減が大きい。 次年度は-2%で進めたい。		
		LPG使用量	数値目標＝使用量、排出量ともに未達成。原単位では排出量のみ達成。 売上の増加に比例して増加。 次年度も同様の削減率で進めたい。		
		都市ガス使用量	数値目標＝使用量、排出量ともに未達成。 売上増、労働時間の増加に比例して増加。仕上B棟の本格稼働による増加。 次年度も同様の削減率でチャレンジしたい。		
		灯油使用量	数値目標＝使用量、排出量ともに未達成。 受注の増加、労働時間の増加、冬場の冷え込みの厳しさによる。 次年度も削減率は同様にチャレンジする。		
		ガソリン使用量	数値目標＝排出量達成。		
		軽油使用量	軽油(トラック)の使用量減少が大きかった。 次年度も同様の削減率で進めたい。		
	<p>機械装置(EML)の入替により、Co2₂ 排出量総量は激減しました。 灯油やガス等、使用量が気候に左右されるものは削減がむずかしかったです。 次年度は、仕事量の増加が見込まれるため、削減は厳しい状況になりそうです。</p>				

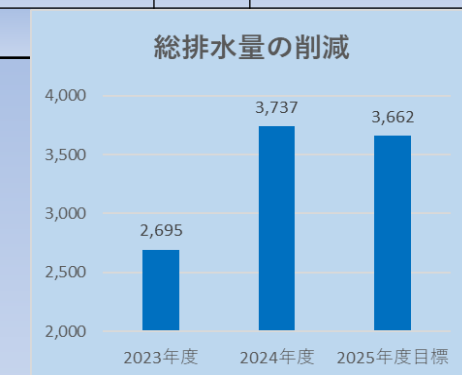
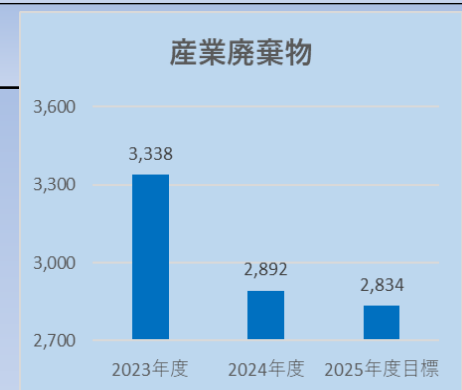




活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

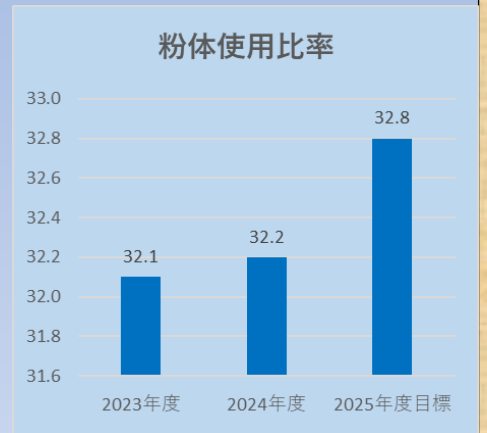
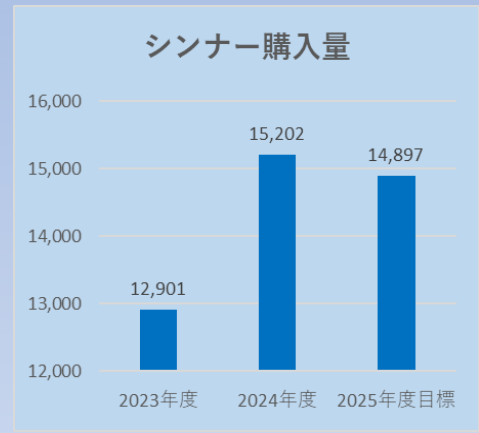
原単位は生産高100万円あたり

番号	方針項目	目標項目	主な取り組み(目標達成手段)	達成状況	実行部署
E-2	廃棄物排出量の削減	産業廃棄物	社内3Sと分別の徹底	×	全部署
		廃油&汚泥	塗装の品質及び生産改善により引火性廃油及び汚泥の排出削減	△	塗装G
	取り組みの評価	産業廃棄物	数値目標=未達成。 木くずの回収をお願いしていた先が回収できなくなり、産廃として廃棄することになった影響が大きい。		
		廃油&汚泥	数値目標=未達成。 汚泥は削減できたが、引火性廃油の排出量が増えてしまった。		
<p>木くずのリサイクル回収が出来なくなったために、産廃として廃棄することになり排出量が増加してしまいました。ジモティなどを活用し、リサイクル回収を進めていますが全回収までにはいたりませんでした。 来年度も、あらたな回収先を検討する等、削減に取り組めます。</p> <p>引火性廃油は塗装の受注量や色変更の多さに比例して排出されるため、顧客のニーズによるところも大きく削減が厳しい面も発覚しました。</p>					
E-3	排水量の削減	水道水使用量	給水設備点検を行い、水漏れを防止して一般水使用量削減	○	総務
	取り組みの評価	水道水使用量	数値目標=未達成。受注量に比例して増加。		
	<p>原単位目標2.00m³に対し2.26m³と増加となりました。 塗装Gの水使用量が増えていますが、処理量に比例するため受注量の増加によるところが大きいです。</p> <p>また、夏季の気温上昇によるクーリングタワーの使用頻度は増加傾向です。 次年度も、使用量推移の監視は続け、ムダやロスの削減に取り組めます。</p>				



活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

番号	方針項目	目標項目	主な取り組み(目標達成手段)	達成状況	実行部署	
E-4	化学物質の削減と適正管理	シンナー購入量	前処理ラインの利用でシンナー拭きを減らす	○	塗装G	
			作業ミスによる使用量増加の抑制	○	塗装G	
			季節により使用するシンナーを変えることで揮発を抑制する	○	塗装G	
		粉体塗料使用量	粉体塗装適用製品を広げ VOC を削減する	△	塗装G	
	取り組みの評価	シンナー購入量	数値目標=購入量達成。 季節による使用シンナーの変更を継続実施している。 次年度も同様の削減率で進めたい。			
		粉体塗料使用量	数値目標=購入量未達成。 昨年より購入量は増やせなかったが、使用比率としては昨年より少しあがった。			
<p>シンナー購入量を削減 季節による使用シンナーの変更実施の効果は見られましたが、購入量は達成できませんでした。ただし原単位では達成しています。来年度はさらに細かく作業を見直し、さらなる削減のポイントをつかみたいと思います。</p> <p>粉体塗料使用量の変化 目標が達成に一步及ばずでしたが、使用比率は上りました。今後も、粉体塗装への移行提案商品の検討を続けます。</p>						



活動：○よくできた △あまりできなかった ×全くできなかった

番号	方針項目	目標項目	主な取り組み(目標達成手段)	達成状況	実行部署
E-5	企業価値の発進	一人当たり付加価値額	残業時間の管理	○	全部署
			環境経営レポートの社内外への発信	○	総務
			リスクリングの推進	○	全部署
			付加価値額の監視	○	総務
<p>社員の働き方に対する意識改革(時間内にやりきる、必要な時は残業する、などメリハリをつける)が定着してきたと思います。</p> <p>また、有休・産休・育休利用に対応できるリスクリングも当たり前になりつつあり、応援によりお互いを思いやる文化も根付いています。</p> <p>売上は昨年比109%、一人当たり付加価値額は137%と大きく増加しました。</p>					

7. マテリアルバランス

インプット

エネルギー	
・ 電力	842,547 kWh
・ LPG	26,315 m ³
・ 都市ガス	17,262 m ³
・ 灯油	1,945 l
・ ガソリン	2,754 l
・ 軽油	4,712 l
金属材料	
・ 鉄板	1,391,423 kg
・ ステンレス板	65,352 kg
・ アルミ板	36 kg
化学物質	
・ 溶剤塗料	19,241 kg
・ 粉体塗料	9,364 kg
・ シンナー	14,048 l
水	
・ 上水道	4,509 m ³

事業活動

営業
設計・開発
工程計画 資材調達
製造
物流
出荷

アウトプット

二酸化炭素排出量	545,662 kg-CO ₂
リサイクル	
・ スクラップ(鉄)	414,190 kg
・ スクラップ(ステン)	32,020 kg
・ スクラップ(アルミ)	70 kg
・ 引火性廃油・汚泥	32,570 kg
廃棄物排出	
産業廃棄物は、廃プラ・混合等の合計	
・ 産業廃棄物	6,478 kg
・ 木くず	3,460 kg
・ 一般事業ゴミ	161,325 L
水	
・ 排水	4,509 m ³

8. 環境関連法規等の法令遵守の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟の有無

8-1 法令遵守状況

適応法令(条例)	該当する項目	遵守状況
廃棄物処理法	保管・委託の適正管理 特別産業廃棄物管理責任者設置 産業廃棄物管理票交付等状況報告書提出	適合
自動車NOx・PM法	トラック	適合
フロン排出抑制法	廃棄時の適正処理 簡易点検、定期点検	適合
下水道法	水質測定	適合
悪臭防止法	トルエン及びキシレンの使用	適合
騒音規制法 振動規制法	ターレットパンチプレス、プレスブレーキ、レーザー 複合機、シャーリングマシン、エアーコンプレッサー、 窒素発生装置、クーリングタワー	適合
PRTR法	塗料溶剤	適合
顧客要求事項	環境に配慮した製品設計・部材調達RoHS、REACH対応。 有害化学物質含有量の少ない部材調達、供給者ネットワーク確立。 顧客からの調査依頼対応	適合

※2025年11月内部監査にて遵守状況確認済

8-2 違反・訴訟の有無

違反・訴訟等も過去3年間ありませんでした

8-3 近隣からの苦情の有無

特にありませんでした。

9. 2025年度の取組み

9-1 緊急事態対応訓練(2025年11月14日)

塗装ブースの循環水流出を想定して、
緊急事態処理手順書に基づき応急処置
訓練を実施しました

※火災訓練は別途、ISO手順に基づき
全サイトにて実施しています



手順書通り実施し、流出防止処置の
確認が出来ました。
※なお、今回の訓練による手順書見直しや
変更の必要ありませんでした。

10. その他の取組み

10-1 地域の清掃活動(2025年6月9日)



環境月間の活動として、
毎年恩智川沿いの道の清掃活動を行って
います



11. マネジメントレビュー

11-1 経営者による全体評価

- ・ 2025年度は仕上B棟の建築・仕上棟の解体・本社前の土地購入・本社の外壁改修、EMLAJ-eの前倒し購入など、様々なものが大きく動いた1年となりました。
売上が前年比9%増の中、リスクリングの効果や仕上B棟建築・本社前の土地購入により動線がスムーズになったことで残業時間を増やすことなく対応できています。
- ・ EMLAJ-e購入後の電力使用量は目に見えて減っており、省電力化を実感しております。
- ・ 本社屋上には改修の際に断熱材を施工し、現場のパート・アルバイトさんにはネックファンを、過酷な環境の塗装場にはペルチェベストを支給するなど、作業環境の改善にも取り組みました。
- ・ 2025年11月エコアクション21更新審査の結果は適合評価でした。
総合コメントでは就業規則の改訂や、リスクリングによる多能化応援体制の構築による生産性の向上が評価されました。

(参考) QMS/EMS定期マネジメントレビュー(2025. 11. 28)、エコアクション21更新審査(2025. 11. 17-18)、2025年度決算報告書

11-2 次年度に向けて(アクション)

- ・ 環境経営方針、実施体制は変更しません。
目標設定は、総量と原単位の2本立て（前年度基準）とします。

環境経営方針
環境経営目標・計画
実施体制他

変更なし 変更あり
変更なし 変更あり
変更なし 変更あり

- ・ 次年度は働き方改革（定年制度の撤廃）を実施、長く働ける環境を提供することで、労働意欲を高めスキルの定着化・パフォーマンス向上を目指します。
- ・ 更新した設備の活用により、エネルギー効率を高め、さらに省エネにつなげていきたいと思えます。
- ・ 今年度は仕上棟の解体、統合、新築を行っており、次年度は負荷の変化の把握とサイトの登録変更に対応します。

あしがき

2025年度環境経営レポートを最後までお読みいただきありがとうございます。

全社で取り組んでいるリスキリング（一人ひとりが今までの仕事だけでなく、他の仕事もできるようにスキルアップする）が定着したと感じています。それにより、売上が増えても残業時間が増えない仕組みが構築され一人当たり付加価値が向上しました。

また、設備投資による作業の効率化や消費電力の削減がCO₂総排出量の削減に大きく影響しました。

今後も社内コミュニケーションツールのdirectを活用し、環境に関する情報を発信していきたいと思えます。